

まが たま 勾玉を作ろう

大野城市教育委員会

1. 勾玉とは

勾玉は、日本で縄文時代から古墳時代ごろまで作られていた装身具（アクセサリー）の一つです。Cの字形に曲がった形をしていて、ひもを通すための穴があけられています。穴にひもを通して首からさげたり、手首につけたりしました。

石を磨いて作ったもの、土器のように粘土で作って素焼きしたものや、弥生時代より後ではガラスで作ったものもあります。中でも石がもっとも多く、とくにヒスイ（硬玉）^{こうぎよく}というかたくてきれいな緑色の石がよく使われました。日本でヒスイがとれるところはごく一部で、そのうちの新潟県の糸魚川流域^{いとがわ}でとれたものが主に使われていました。



唐山遺跡（乙金東3丁目）で見つかったヒスイの勾玉

2. 大野城市内で出土した勾玉



5は塚原古墳群、6は王城山古墳群、他は中通古墳群出土

大野城市では主に古墳時代の遺跡から見つかっています。上の写真の勾玉は、すべて大野城市内にあった古墳の中から出てきたものです。1・2はヒスイ、3は滑石^{かっせき}というやわらかい石で、4は碧玉^{へきぎよく}、5～7はめのうという石でできています。8は水晶^{すいしょう}で、半分欠けています。

3. 勾玉の作り方

日本の各地で見つかった勾玉作りをしていた遺跡の例から、昔の人がどのように勾玉を作っていたかがわかっています。

☆石製勾玉の製作工程（石の勾玉を作る手順）

A 原石採取 げんせきさいしゆ 勾玉の材料になる石を手に入れることです。川や海辺に転がっている石を拾ってきて作ったものが多いようです。

B 荒割・形割 あらわり かたわり 取ってきた材料を加工しやすい大きさに割ります。

C 調整 ちようせい 道具を使って石の角かどを取ります。

D 研磨 けんま 砥石といしを使って石を磨いて、形を作っていきます。

E 穿孔 せんこう ひもを通すための穴をあけることです。道具は、石や竹のきりきりなどを使いました。

F 仕上げ たいすい 砥石や動物の皮で磨いて、表面をきれいに仕上げて完成させます。



4. 勾玉を作ろう 実際に作ってみましょう。

